

ニンジン

セリ科 原産地：中央アジア、アフガニスタン 学名：Daucus carota L.

夏まき

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
夏まき 作型													
主な作業								播 種					収 穫

技術体系

1 作型の特徴

7～9月上旬に播種し、秋～冬にかけて収穫する作型である。ニンジンの栽培の中では面積も大きく作りやすく、多くの資材や労力を要さず、良品生産ができる。しかし、高温乾燥期の播種であるため、発芽そろいが重要である。

早播きほど病害の発生や、シミ症の発生が多くなり、播種が遅すぎると、肥大と着色が不良となる。

2 適応地域 全域

3 栽培条件

(1) 温度条件

ニンジンの発芽適温は15～25℃である。、本葉7枚（播種後約70日）頃より肥大とカロテン生成が急に盛んになる。このときの適温は、18～21℃程度であるため、無理な早播き、遅播きはさける。

(2) 光条件 光不足は根の肥大が不良となる。

(3) 土壌条件 pH5.5～6.5 過湿に弱い。

4 経営目標

- | | |
|------------|------------------------|
| (1) 収量 | 4.5/10a |
| (2) 投下労働時間 | 97時間/10a
(出荷調整作業含む) |
| (3) 所得率 | 39% |
| (4) 経営規模 | 150 a
(家族労働力4人の場合) |

栽培技術

1 品種と特性

「向陽2号」

草勢が強く、晩抽、早太りで、良品多収の春夏作兼用品の五寸ニンジン。根割れは少なく、そろいがよい。播種後110～120日で根長18cmになる。

「紅楽」

耐寒性が強く、地上部の枯れが遅い。そのため、年明け後の機械収穫にも向く。播種後105日で収穫、根長17cm、根径6cmとなり、根部は吸い込み型で尻詰まりが良い。肥大力旺盛なため、施肥量をやや控えめにする。

「ベータ312」

葉はコンパクト、緑首になりにくい。根形はやや肩

張りで、根長18 cmになる。根色、肉色ともに濃鮮紅色で裂根が少なく、秀品率が高い。

2 本圃の準備

耕土が深く、肥沃で通気性、保水性のある圃場を選定するが、センチュウ被害のおそれがある圃場は、播種20日前までに消毒を行う。

(1) 砕土：発芽やその後の生育の促進と岐根防止のために、土を細かくして土塊のない状態にしておく。

(2) 施肥

施肥量	(kg / 10a)		
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基肥	8	15	6
追肥	4	0	4
全量	12	15	10

- ・完熟堆肥を2 t施用する。
- ・施肥量は、土壤診断結果により加減する。

3 播種

(1) 播種期と収穫期

7月下旬播種	10～11月収穫
8月上旬播種	11～12月収穫
8月中旬播種	12～1月収穫

8月下旬～9月上旬播種 1月～3月上旬収穫

(2) 播種量

コート種子利用で、10 a当たり6万～7万粒準備する。

(3) 播種方法

降雨後か散水後播種し、覆土は薄く行ない鎮圧する。

*最近では、コート種子利用による機械での1粒まきが主流となっている。

(4) 栽植様式

畦幅 120 cm、条間15～20 cm

6条植え 株間 6～8 cm (最終株間)

(5) 除草剤の散布

播種直後、雑草発生前に全面土壌処理剤を土壌の湿りがあるうちに散布する。

4 栽培管理

(1) 間引き (必要に応じて行う)

間引きは、本葉5～6葉期までに行い、株間6～8 cmにする。草勢が中程度よりやや強い株を残す。

(2) 追肥・土寄せ

追肥後、土寄せを行い、首部の着色、低温期の凍害を防止する。

(3) 灌水

降雨不足の場合、灌水は播種期～生育初期を中心に、5～7日ごとに散水する。生育中期に土壌水分が多いと地上部が過繁茂になり、根部の肥大、尻づまりが悪くなる。

5 収穫

播種期及び生育にあわせて、根部の先端にまるみがでてから収穫を始める。収穫機の普及で収穫作業は迅速に行えるため、調整能力を考えて収穫する。年明け収穫では、地上部の枯れ上がりがひどく、機械収穫が困難な場合もあるため、品種の選択に十分留意が必要である。